

忍耐スルヲ稱讚シ且ツ之ヲ方正ノ生活ヲ爲サシメ又之ヲ獎勵メ曰ク主ノ降臨ノ日ヲ見スノ死セシ者ハ其降臨ノ日ニ當テ生者ニ先ツテ主ヲ迎フルヲ得ヘシト

第二 フエサロニカ人ニ達スル後書

前書ヲ作りシ次年コリソプニ於テ又後書ヲ爲レリ蓋不和ノ風聞流傳セシヲ以テ也フエサロニカハ甲ハ自ラ稱シ感神ノ預言者ト爲シ乙ハパウエルノ前書ヲ誤解シ丙ハ自ラ書ヲ爲リ使徒ノ名ヲ以テ之ヲ民間ニ流布シハリストス降臨ノ日近キニアリト爲セシカハ此ヲ聞ク者ハ徒ニ憂悶メ遂ニ皆已ノ業事ヲ廢止スルニ至レリ故ニ使徒パウエル之ヲ懇

諭鎮止セント欲シ後書ヲ移シテ主降臨ノ日近ツケハ必前徴アル(二ノ一、十二)ヲ述ヘ且己ノ業事ヲ勉強メ怠惰ナカラシメ又最後ニ於テ書札ノ眞偽ヲ判定スヘキノ徴ヲ示セリ

第三 ガラテヤ人ニ達スル書

ガラテヤハ一名ガリレヤグレチヤト云フ即小亞西亞ノ一縣ニシガリレヤノ移住者カ紀元前二百八十年ニ殖民セシ所也パウエルハ第二旅行ノ時此地ノ人ニ福音ノ道ヲ傳ヘタリシニ多ク熱心ニ神言ヲ受ケタリ然ルニパウエルノ此地ヲ去ルニ及テ僞師現レテパウエルノ説ク所ハ他ノ諸使徒ノ説ク所ト相反セリト宣言シパウエルノ徳望ヲ妨ケント欲シガラ



テヤ人ニ勸メテモイセイノ法律儀式ヲ遵守セシメテ曰ク  
 若シ割禮ヲ受ケザレバ必救贖ヲ得ル能ハスト故ニ使徒バ  
 ワエルハエヘスヨリ書ヲ遣リテ先ツ己ハ神ニ立テラレタル  
 眞正ノ使徒ナルヲ且ツ其傳フル所ノ福音ハ神ノ啓示ニ因  
 テ受ケシ教ナレハ固ヨリ不易ノ道ナルヲ及ヒ諸使徒イヤ  
 コフ、ペートル及ヒイサアン等ハ己ヲ認メテ異邦ニ傳道ス  
 ヘキ使徒ト爲シタルヲ等ヲ証明シ(一二章)次ニ前ニ於テ義  
 ト稱セラレ、ハハリステスヲ信スルニ在テハリステアニ  
 シノ頼テ以テ自由ヲ得ル所以ハモイセイノ法律ニ遵フニ  
 因ルニアラザルヲテ説明シ(三、四章)最後ニハリステアニ

ノ自由ヲ惡ニ用ウヘカラズノ善ニ用ウヘキヲテ教戒セリ  
 (五、六章)

第四 コリンプ人ニ達スル前書

コリンプハアハイヤノ首府ニシテエゲー海トヨニチエスク海  
 トノ中間ナルペロポネズ地峽ニ在ル有名ノ府也イストミ  
 イノ遊戯及ヒワエネラノ禮拜堂等アルガ故ニグレチヤノ諸  
 州ヨリ異邦人ノ輻湊スル者甚タ多ク且ツ貿易ノ盛大ナル  
 ニ因テ頗ル殷富也此地學術ハ大ニ開ケタリシモ唯風俗ヲ  
 紊乱スルノ機具ト爲リ工藝ハ最モ盛ナリシモ唯驕奢ノ器  
 具タルニ過キス使徒パウエルハテモフエイ及ヒシラト共ニ此



都ニ傳道スルコト一年半ニシテ障害難苦ヲ受ルコト甚ク多カリ  
 シカモイウデヤ人及ヒ異邦人ヲ歸教セシメタルコトモ亦頗ル  
 多シ然ルニパウエルノ去ルニ及テコリントニ偽師現出シ先  
 ツバワエルヲ讒謗誹斥シ次テハリステアニシテ或ハイウ  
 デヤノ風俗ニ轉向シ或ハ異教ニテ許ス所ノ身ノ般樂ヲ爲  
 サシメタリ其事既ニ諸方ニ蔓延シ遂ニ紛争ヲ生シコリン  
 トノハリステアニシテ分レテ數派トナリ甲ハ自ラ稱ソバ  
 ワエル派ト云ヒ乙ハキヒン派ト云ヒ丙ハ使徒派ト云ヒ丁ハ  
 ハリストス派ト云ヒタリ此時パウエルハエヘスニ在リ家人  
 フロイトスヨリコリントノハリステアニシテノ間ニ規序大ニ

紊乱セシテ聞知シ其迷蒙ヲ解カシガ爲ニ自ラ第一書札ヲ  
 作テ之ヲ遣レリ其書中ニコリント人が無益ニ福音傳道者  
 ノ優劣ヲ比較論争スルコトヲ戒メテ互ニ同心一致セシメテ  
 勸メ(一、四章)色欲ヲ去リ諸惡行ヲ改ムルヲ諭シ(五、六章)處女  
 及ヒ夫婦ノ生活上ニ關シ曖昧ニシテ了解シ難キコトヲ辨解シ  
 (七章)異教ノ宴樂ニ與ルコトヲ戒メ(八至十章)聖體機密ノ時ニ  
 ハ教會必謹慎セザル可ラサルコトヲ説キ(十一章)靈賜ノ差別  
 及ヒ其使用ヲ論シ愛徳ノ功用ヲ述ヘ(十二至十四章)死者復  
 活ノコトヲ教ヘ(十五章)善行實事ヲ勸奨セリ(十六章)

第五 コリント人ニ達スル後書



パウエルハ既ニ前書ヲ遣タリ次テヲトヲコリンブニ遣ハセ  
 リ蓋其意ハ一ハ前書ニ付如何ナル感動ヲ生セシヤヲ知  
 ガ爲メ一ハ施濟ヲ集メテパレステハノ貧困ナルハリステ  
 アノンヲ救ハンガ爲メ也テト復命ノ曰ク衆ハ皆恭敬ノ書  
 札ヲ受ケ且ツ惡行モ亦歇ミタリシガ唯彼ノ僞師等爾ガ自  
 ラ彼地ニ往クヲ約シ今書ノミヲ遣リシヲ以テ流言ノパ  
 ル小膽ニメ約束ヲ守ルコト堅カラス故ニ教法上ニ於テモ亦  
 然ラント云ヘリト此疑團ヲ解カンガ爲メパウエルハ復タ書  
 テ移メ自ラコリンブニ往ク能ハザル理由ヲ説キ(一、二章)新  
 約及ヒ其聖役者ノ特權ヲ示シ(三、五章)コリンブ人ニ勸メテ

操行方正ナラシメ且ツ貧者ヲ矜恤セム(六、九章)已ノ使徒  
 ノ勞動困難及啓示等ノコトヲ述ヘ(十、十二章)自ラ彼ニ往テ嚴  
 法ヲ用キント言テ之ヲ驚動セシメタリ(十三章)此新書札ハ  
 マケドニヤヨリヲト及ヒルカト共ニ第一書札ト同年ニ遣  
 リタリ此時パウエルハ既ニコリンブニ赴カントノ途ニ上レ  
 リ

第六 ローマ人ニ達スル書

使徒 パウエルハ アハイヤ及ヒ マケドニヤニ於テ集メタル慈  
 惠物ヲ携テ ローマ人ニ達スル書十五ノ二、五二六 イエルサ  
リムニ赴キ イエルサリムヨリ ローマニ之カニト欲セシ時



コリノプニ在テコノ書ヲローマ人ニ遣セリ(行傳十九ノ二一)  
 抑此書ヲ遺ス所以ハ唯ローマ教會ヲ觀ント欲スルノミナ  
 ラスイウヂヤ及ヒ異邦ノハリステアニンノ間ニ爭論ヲ生  
 シ神前ニ立テ孰カ最モ多ク義ト稱セラル、ノ權ヲ有スル  
 ヤト曰フヲ以テ也パウエルハ書中之ヲ説明シ曰ク異邦人ハ  
 己ノ智慧ヲ以テスト雖ヒイウヂヤ人ハモイセイノ律法ヲ  
 遵守スト雖ヒ到底神前ニ立テ義ト稱セラル、ヲ得ス(一ノ  
 一ヨリ三マテ二十)救贖ヲ得ルハ唯獨イ、ス、ハリストス  
 ナ信セルヲ以テノミ之ヲ信スレバイウヂヤ人モ異邦人モ  
 皆同シク神ノ仁愛ヲ得ヘシト(三ノ二一、十一ノ二六)其後ニ

ハリステアニンノ德誼ニ關スル訓戒ヲ述ヘタリ(十二ノ十  
 四)此書ハパウエルノ口述ニ從ヒテルツイノ書スル所ノ者ニ  
 シヒワニ托ノ之ヲローマニ遣ハセリヒワハコリノプノ東  
 津ニ在ルケンプレー教會デアコニツサ(當時ハリストス教  
 會ニ於テ立ツル所ノ寡婦或ハ處女ヲ云フ其職務ハ貧困者  
 ナ矜恤シ婦人ノ洗禮ヲ受クル時之ヲ禮拜堂ニ誘ビク等也)  
 也

乙 ローマノ第一囚中ニ書スル者

第七 ヒリツプ人ニ達スル書

ヒリツプ教會ハパウエル囚繫ノ事ヲ聞知シエパフロデトヲ



ローマニ遣シタリ蓋其ノ爲メニ果メタル贈物ヲパウエルニ寄  
セ且ツ之ニ供事セシメント欲スレハ也パウエルハ大ニ喜ヒ  
書ヲ與ヘテ之ヲ遣リ歸シタリ其書中ニ桎梏ニ繫ルハハリ  
ストスノ福音ノ爲メニ利益アルヲ述ヘ而シ之ニ皆一心一  
致ナラント論シ之ニ能ク善行ヲ爲シ以テ已チ喜ハシ  
メントヲ請ヒ又之ヲ善ク、イウデヤ人ノ意見及ヒ儀式等  
ヲ混淆シハリストス教ノ潔白ヲ穢ス所ノ偽師ヲ警戒セシ  
メ終ニ至リテ欣喜愛慕ヲ以テ其施濟ヲ感稱セリ

第八 エヘス人ニ達スル書

エヘス人等ハパウエルノ囚繫ニ罹ルヲ聞テ大ニ之ヲ憂ヒ(三

ノ十三)又妄信且ツ放肆ナル異邦人カ衆ヲ蠱惑センコトヲ恐  
レタリ(四ノ十四五ノ六行傳二十ノ三十)パウエル之ニ書ヲ遣  
リテイウデヤ人及ヒ異邦人カ救贖ノ道ニ預定セラレ且ツ  
誘導セラレ、コトノ秘密ヲ開示シ神ニエヘス人ヲ照光セン  
コトヲ祈リパウエルノ運命ヲ悲傷スル者ヲ慰藉シ(一至三章)且  
ツ行狀ハ必召チ蒙リシ所ノ召ニ符應スヘキコトハリストス  
教會ノ全員ハ咸ク一致同心ヲ守ルベキコト及ヒ操行必方正  
ニ斷然異邦人ノ生活ヲ棄ツヘキコトヲ勸メ又父子夫婦主  
僕等ニ訓戒ヲ與ヘタリ(四至六章)

第九 コロス人ニ達スル書



コロス都ハフリギヤニ在リテラテデキヤ及ヒイエラポリ  
 ナ距ル遠カラス(四ノ十三)パウエルノ門徒エパfrasナル者  
 此地ニテハリストス教ヲ傳播セシガ(一ノ七)イウデヤ風ノ  
 外儀ヲ守リ且ツ東邦理學ノ偏見ヲ執リタル唱者出テ(二ノ  
 十六、十八、二一)將ニ神道ノ眞理ヲ害セントセリ是ニ於テエ  
 パfrasローマニ至リテ之ヲ使徒パウエルニ語ケタリシカ  
 ハパウエル補祭テヒツ及ヒチニシムヲ遣フコロス人ニ書テ  
 遣レリ(四ノ七八)其書中ニ己ノコロス人ニ傳ヘシ教ノ眞理  
 ナ証明シイ、ス、ハリストスノ功績及ヒ其榮譽ヲ述ヘ智  
 慧ノ根原ヲ尋ルニハ潔白ナルヲ執リストスノ眞道ヲ除ケハ

設ヒ如何ナル理學ト雖ヒ又如何ナル人間ノ遺傳ト雖ヒ必  
 之ヲ得ル能ハザルヲ説キ又ハリストスアコシ公私ノ義務  
 ナ示セリ

第十 ヒリモンニ達スル書

ヒリモンハフリギヤノコロス都ノ住人也其僕チニシム會  
 テ其家ヲ脱シローマニ來リ使徒パウエルニ見ヘテ洗禮ヲ受  
 ケタリシガ信心愈鞏固ナルニ及テパウエル之ヲヒリモンニ  
 遣フ書ヲ遣レリ其書中ニチニシムノ爲メニ保証ヲ爲シヒ  
 リモンニ請フテ復タチニシムヲ待スル無用ノ僕ノ如クセ  
 スノ親愛ナル兄弟ノ如クセンヲ求メ且ツ之ヲソチニシ



ムノ爲メニ修道院ヲ備ヘシメタリ  
丙 四 後ニ書スル者

第十一 エウロー人ニ達スル書

此書ハパウエルガ未タイタリヤノ境界ヲ去ラサル前パレス  
テナニ遣シタル也(十三ノ二四)パレステナノエウロー人ハ  
聖パウエルニ反メ他教ヲ妄信セシカハパウエル例ニ因テ書中  
ニ己ノ名ヲ記セス故ニ古人此書ヲ以テ使徒パウエルノ作ト  
承認スル者ナシ然レモ諸師父ノ証明并舊約ノ信徳ノ教  
理其他文章ノ語氣作者獨自ノ事情等ニ因テ之ヲ觀レハパ  
ウエルガ自作ニ係ルハ疑ヲ容レサル所ナリパウエルカ此ノ書

ヲ作ル所以ハパレステナ教會ハイウデヤノ司祭長アンナ  
ノ爲メニ窘困セラレテ其監督者アルヘイノ子イヤコフハ  
之カ爲メニ殺サレ又モイセイ律法ノ妄信者カハリストス  
教徒ヲ恐嚇シタルニ因テ也即イウデヤ人等ハハリストス  
教ニ歸教セシ同國人ニ向ヒ頻リニ之ニ説テ曰クモイセイ  
ノ律法ハ神使ヲ以テ與ヘラレシ者ニソモイセイハ辱刑ニ  
處セラレタルイ、ス、ノ上ニアリ又神カモイセイノ時ニ  
定立シタル事ハ最モ尊嚴ニ神徳ニ符合スル者ナリ然ルニ  
ハリステアニンハ神品モナク禮拜堂モナク聖臺モナク亦  
献祭モナシト是ニ因テパウエル書ソ曰クイ、ス、ハ遠ク諸



預言者神使モイセイ及ヒ総テ舊約司祭長等ノ上ニ出ル者也我儕ハイ、ス、ハリストスカ艱難苦死等ニ因テレワイノ神奉事ニ勝レル善ヲ得タリレワイノ神奉事ハ即我儕ノ影タルニ過キサルノミ又ハリストス教徒ハ貧困ニ陥ルト雖ヒ決メ其教會ヲ離ルベカラズ宜シク舊約ノ諸義人ノ如ク陰徳ヲ信スルノ心ト忍耐トヲ以テ天上ノ安慰ヲ待ツベキ也ト

第十二 テトニ達スル書

テトハ異邦人ヨリ歸教メハリステアニント爲リ(加拉太書二ノ三)聖パウエルト共ニ旅行ノ屢々諸方ヲ巡リ又時々慈惠物ヲ集メシ者也(哥林多書八ノ六十六)パウエル囚繫ヲ釋サレ

テ後イタリヤヨリノ歸途キアル島ニ至リハリストスノ道ヲ傳ヘタリ然レヒ善ク其順序ヲ立ツル能ハザリシカバテトヲ立テ、主教ト爲シ之ニ託シ諸都ニ司祭ヲ立テシメタリ此書ハパウエルノニコポリ(ニコポリニニアリエビル)ニコポリ及ヒマケドニヤノニコポリ是也此ニ稱スル者ハ其何レナルヤ之ヲ詳カニスル能ハス)ニ赴ク途中之ヲテトニ遣セシ者也蓋ニコポリヨリ之ヲ達シタルナラシ(提多三ノ十二)其書中ニハ司祭ヲ選舉スルニ何等ノ方法ヲ用ウ可キヤ又人民ニ向テ何ヲカ勸誨スヘキヤヲ指示セリ

第十三 テモフエイニ達スル前書



テモフエイノ父ハ異邦人ナレモ母ハイウデヤ人ニシハリス  
 トスノ道ヲ信スル者也(行實十六ノ一)テモフエイ幼ヨリ聖書ヲ  
 學ヒ使徒パウエルカ傳道ニ出ルル共同行同勞者ト爲リテ借  
 ニローマニ在リタリパウエル囚繫ヲ釋サレテ小亞細亞教會  
 ナ訪ヒエヘスニ到リテテモフエイヲ立テ其地ノ主教トナシ  
 又自ラマケドニヤニ赴キ(提摩太一ノ三)マケドニヤヨリ  
 (蓋ヒリビロリナラン)テモフエイニ此第一書札ヲ遣セリ其書  
 中ニテモフエイニ教フルニ牧者ノ職務ヲ履行スル方法及ヒ  
 人ニ異ナルコトハ如何ナル性情ヲ以テスヘキヲ又種々ノ行  
 ナ以テ信者ニ勸メテ偽師ヲ捍禦セシムルヲ等ヲ以テセリ

丙、最後ノ囚繫ノ時ローマニ於テ書スル者

第十四、テモフエイニ達スル後書

前書ニ於ケルガ如ク此ノ後書ニ於テモパウエルハ頻リニテ  
 モフエイヲ教戒スルニ正シク牧者ノ職務ヲ實行シ異端者及  
 ヒ岐教徒ヨリ牧群ヲ防禦スベキヲ以テシ且ツ之ニ告グル  
 ニ己ノ死期近キヲ以テ(提摩太四ノ六七)速カニマルクト  
 共ニローマニ來リテ已ニ就ンコトヲ命セリ

第六、使徒ペートルノ公書

使徒ペートルハパレステナ外ニ散居セルイウデヤ人ノ信  
 者ニ公書ヲ遣ス者ニアリ福アウグステンノ言ニ據ンバ第



一書札ハ「イヤコフ」ノ書ノ如ク「信心ハ行爲ニ關セズトノ謬訓ヨリ起ル所ノ惡行ヲ匡正スルガ爲メニ書セシ者也ト書中ニ「ワウロン」ヲ示ス處アリ「彼得前書五ノ十二」バ「ヒヤ及ヒイエロニム」ノ言ニ據レバ是ハ此レ「ローマ」ヲ指シ云フ即チ「ペートル」最後ノ生活ヲ爲セシ所也ト「ペートル」ハ「ハリス」テ「アノン」ニ勸ムルニ諸窘逐キ願ミズシ喜テ己ノ信心ヲ守リ異邦人ノ讒言ニ惑ハサレズシ神ニ倣フテ善行ヲ爲シ有司ノ權ニ從ヒ且ツ「ハリス」テ「アノン」ノ自由ヲ以テ惡ヲ掩ハサラン「コナ」以テセリ又其後ニ僕婢夫婦教會各員牧者及ヒ被牧者等ノ爲メニ「パリステア」ニ「アノン」ノ禮法ヲ説キタリ此書札ハ

「ペートル」カ死スル二年前ニ書セシ者ニ遺言ノ如キ者也「彼得後書一ノ十四」此書ニ於テ「ペートル」ハ衆ニ信心ヲ確固シ僞師ヲ遠サケン「コナ」ヲ勸メ且ツ世界ノ終期未タ來ラサルヲ知ラスメ「猥リ」ニ神ノ約束ヲ以テ應セザル者トナスナカラ「ン」ヲ説キ又諭シ若シ己ノ救贖ヲ得ント欲セバ先ツ神ノ寛忍中ニ身ヲ脩ムルニ若シハナシト云ヘリ

第七 使徒「イウダ」ノ公書

使徒「イウダ」ハ「アルヘイ」ノ子「イヤコフ」ノ兄弟也其書札ハ往々「ペートル」ノ後書ト相似タル所アリ「イウダ」ノ此書ヲ作リシハ総テ信者ノ爲メニスル者ニシテ信者ヲシテ諸使徒ヨリ



受タル教理ヲ固守セシメ且ツ偽師ヲ捍禦センカ爲メニ大ニ有名無實ノハリステアニシテ責メタリ蓋彼等有司ヲ誹謗シ放恣ニ陥リ且ツ神奉事ヲ以テ却テ罪業トナスヲ以テ也此書ハ第一世紀ノ末ニ於テ書セシ者ニ即チ罪惡ノ盛ニ行ル時也

第八 使徒神學者イチアソノ書札

使徒神學者イチアソノ書ヲ作ルハ最モ諸使徒ニ後レタリ其ノ教會ニ遺セシ者ハ福音經及ヒ三書札ニ默示錄是也默示錄ニハイ、ス、ハリステスノ事ヲ証ソドミチアソノ爲メニパトム島ニ流謫セラレ島内ニ在リテ獲タル所ノ默

示ヲ記載セリ會々主日ニイチアソ精神爽然トシ非常ニ洞察ノ力ヲ得タリシガ此時イ、ス、ハリステス之ニ現ハレ諸ノ譬ヲ引テハリステス教會ノ後來ノ運命ヲ啓示シ命シテ小亞西亞七教會ノ爲メニ其啓示ノ事ヲ述ベシメタリ其啓示ノ目的ハ衆信者ヲ窘困中ニ慰藉シ且ツ其ノ頻リニハリステアニシテ將來ヲ畏懼憂慮スルノ念ヲ攘除スルニアリ蓋イウデヤ人(十一ノ一、十七)異邦人(十一ノ十八十三ノ十)及ビ偽師(十三ノ十一十九ノ十)等百方基督徒ヲ攻ルヲ以テ也其要旨ハ古昔ノ蛇即チ誑惑者ト蓋即チ贖罪主トノ爭論蓋ノ全勝及ヒ全世界ノ將來ノ改新等ニ在リ



三年ヲ越テイヲアンハエヘスニ於テ福音經ヲ記セリ蓋其  
 死ノ二年前也〔イヲアンノ門徒タリシボリカルフノ弟徒イリ  
 チーノ言ニ曰クイヲアンハ主ノ門徒ニシテ主ノ懷中ニ臥セ  
 シ者也彼レ亞西亞ノエヘスニ於テ福音經ヲ書セリト〕其ノ  
 之ヲ記セシ所以ハ第一ニ己ハ既ニ福音經ノ事ヲ實見セシ  
 者ナレバ前ノ三福音經ヲ參閱メ其遺漏逸事ヲ編纂シ特別  
 ノ要旨ヲ以テ新タニ一書ヲ作ラント欲スルニ因ル也第二  
 ハ小亞西亞ノ主教等諸使徒中イヲアンカ獨當時ニ存セル  
 チ以テ之ニ請フテイ、ス、ハリストスノ「及ヒワロンテ  
ン、コリンブ及ビエワイオコト人等ノ異端ヲ墨守スルノ誤見

ヲ排ノイ、ス、ハリストスノ救贖ノ事ノ証ヲ教會ニ遺サ  
 ノ「ヲヲ求メシニ因ル也是ヲ以テイオアンハ三福音經ニ記  
 載シタル者ハ往々之ヲ除キテ唯イ、ス、ハリストスノ教  
 訓及ヒ其言行中最モ著シクイ、ス、ノ神威ヲ顯ハス所ノ  
 言及ヒ奇蹟ヲ舉テ之ヲ述ベタリ又其ノ言ニ曰ク録ニ云イ  
 ハス、ハ神ノ子ハリストスナルヲ信スヘシ之ヲ信スル者  
 ハ其ノ名ニ因テ生命ヲ得ベシト故ニイオアンハ此目的ヲ  
 以テ福音經ノ初ニ神言ノ永遠有在ナル「ヲヲ説ケリ其言ハ  
 即チイ、ス、ニノ人体ヲ藉リテ地ニ降タリ己ノ神榮ヲ顯  
 ハセシ者也都テイ、ス、ハリストスノ言ノ高尙ナル「ヲ與



密ナルヲ及ビ其著大ナルヲ等ハ皆主ノ談話中ニ包含セリ且  
ツイオアンハ神榮ヲ顯ハス所ノイ、ス、ノ奇蹟中ヨリ水  
ヲ以テ酒ニ化スルヲ生レナカラノ盲者ヲ痊治スルヲ及ヒ  
死ノ四日ヲ越エタルヲザルノ復活ノヲ等ノ未ダ曾テ聞カ  
ザル所ノ奇蹟ヲ撰テ之ヲ述ベタリ又イ、ス、スハリストス  
ノ苦難復活等ノヲチ説キシ所モ唯親ヲ之ヲ証セシ事ノミ  
ヲ舉タリ

イオアンハ福音經増補中ニ全世界ノ教會ノ爲メニ信心ノ  
龜鑑ヲ述ベ又神子ヲ信ズルヲ以テ基トナス所ノハリステ  
アノンノ濟生法ヲ書セリ其書ハ則チイオアンノ第一公書

ト稱ソ衆ノ能ク知ル所也イオアンハ此ノ書中ニ衆信者ニ  
勸メテ人ハ神ノ子ナルヲ信シテ操行必方正コシ我儕ノ代  
贖者イ、ス、ハリストスノ血ハ我儕萬般ノ罪惡ヲ洗除ス  
ルヲ希望シ神子ノ降臨ヲ承認セサル所ノ僞師ヲ遠サケ且  
ツ殊ニ相互ニ愛護スルヲ專ニセシム

第二書第三書ハ甚タ大ナラズ其第二書ハ某貴嬪ニ遣セシ  
者也又大アハナシイノ言ニ據レハキリヤニ遣セシ所ノ者  
也トモ云フイオアンハ其貴嬪及ヒ其子ノ眞道ニ篤信ナル  
ヲ稱賛シ且ツ僞師ノヲ戒慎ノ之ヲ訪フヲ勿ラシメタリ  
第三書ハガイニ贈リシ者ニ其待遇ノ厚キヲ謝シタル也



第三編 神ノイエルサリム城ヲ審判スル事

第一 神ノイエルサリム城ノ審判ヲ預定スル事

ハリストス道愈々蔚興シテ新約教會ハイウデヤノ舊約教會ノ間ニ立テ益々盛大鞏固トナリ大ニ果實ヲ成熟シ且ツ勢力ヲ得タリ是ヲ以テ其果實ヲ苞裹セシ舊約教會ノ自ラ衰頽滅亡ニ歸スルハ必然ノ勢ニシテ數ノ免レサル所也故ニ人間社會ノ尙ホ幼稚ナルニ當リ教會ノ爲メニ定立セラレタルソウイ族ノ神奉事ノ儀式ハ唯僅カニ其象ト影トヲ示スニ過キササルノミハリストス靈國ノ光之ニ代リ立ツト雖モ未タ世界ヲ照輝シ遺ス所ナキニ至ラズ然レモ會堂ハ衰

ヘカルヲ得ズイウデヤノ首府イエルサリムハ未タ諸預言者ノ血ヲ洗ハズノ既ニ己ノ手ヲ神ノ子メシヤニ及ボシ慘酷ニ神ヲ害シタル後モ又荐リニ其地ニ遣ハサレタル神ノ奉事者ヲ殺戮セリ然レモ神ハ尙ホ耐久ノイウデヤ人中ヨリ選舉セララル、者ノ改悔ト信心トヲ以テ他ノイウデヤ人ト分離スルヲ待チタリシニ終ニ其期ノ至ルニ及ヘリイエルサリムハ既ニ素ヨリ滅亡スベキニ預定セララルニ因リ天ノ照管者ハ其ノ審判ヲ施行センガ爲メニローマ人ヲ選舉シ其先導者ヲシテ暴虐ナル軍隊ヲ率テ洪水滔天ノ勢ヲ以テ大戰ヲ聖地ニ作コシ且ツ所謂ル害神ノ都城及ビ其ノ聖所ヲ蹂



闕セシメタリ是レ則チダニイルノ預言ニ符應スル也

第二 イエルサリム滅亡ノ前兆

イエルサリムノ亡滅ハ世界ノ末期ヲ預示スル所ノ者ニシテ其殘虐ナル滅亡ニ先ツテ數々種々ノ前兆現ハレタリ  
イウデヤノ戦争ニ先ツテ四年即チ義人ナル使徒イヤコフノ致命セシヨリ六月ヲ越テイエルサリムニ未ダ何ノ變事モアラザリシニ平民アンナノ子イ、ス、ト云フ者慕祭ニ來リ禮拜堂傍ニ至リテ俄ニ叫ンテ曰ク東ニ聲アリ西ニ聲アリ南ニ聲アリ北ニ聲アリイエルサリムニ聲アリ禮拜堂ニ聲アリ新郎新婦ニ聲アリ全都ノ人民ニ聲アリト日夜叫号ソ

全都ヲ周行シタリシカバイウデヤノ一貴人之ヲ聞テ不祥ト爲シ直ニ執ヘテ大ニ之ヲ杖笞セシヨイ、ス、ハ敢テ身ヲ動サズ且ツ他ヲ言ハズ唯頻リニ前言ヲ叫ンテ其毆撃ヲ受ケタリイウデヤノ有司等以爲ラク彼レ此ノ言ヲ吐クハ必神ニ感シタルナラント因テ之ヲローマノ總督アウヒンニ拘引シ又大ニ之ヲ打撃セシニ皮肉傷レテ筋骨見ル、ニ至レ厄イ、ス、ハ絶テ泣號セス唯慘聲ヲ發シ叫テ曰ク悲哉悲哉イエルサリムヤトアウピンハ其何人ニゾ何處ヨリ來リ及ヒ何ノ爲ニ此言ヲ吐クヤヲ糾問セシニイ、ス、ハ唯前言ノ外敢テ一言ヲ發セザリシカバ總督ハ之ヲ見テ



狂人ト爲シテ之ヲ放免セリ其後イ、ス、ハ絶テ人ヲ見ズ  
 又言語ヲ發セズ唯常ニ哀歌ヲ謠フノミ殊ニ祭日ニハ必之  
 テ謠フ恰モ誓約ニ因テ然ル者ノ如シ之ヲ擊テ敢テ怨マ  
 ス物ヲ與フレモ敢テ謝セズ人ニ對スレバ則チ曰ク悲哉悲  
 哉イエルサリムヤト其他ハ一言ヲモ吐カス此ノ如クナル  
 一七年五月ニテ遂ニ死ニ至レリ然レモ其間終始叫テ音聲  
 ナ傷フコナク又疾病ニ罹リシコモナカリキ其後ゲツシイ  
 フロルナル者アウピソニ代リテローマノ総督トナリシ年  
イエルサリムニ劔ノ如キ大星見ハレ殆ソト一年間城上チ  
 照輝セリイウデアヤ人ノ未ダ蜂起セズ戰鬪ノ未ダ起ラザル

ニ當リバヌハ祭數日前ニ人民早ク集合セシガ日未ダ出ザ  
 ル三時前ニ當テ光アリ祭壇及ヒ聖處ヲ環照シ恰モ晝ノ如  
 ク一時半間ヲ過テ稍ク減シタリ又祭日ニ至リテ獻祭ノ爲  
 メニ携ヒ來リシ牝犢ハ禮拜堂ノ中央ニ於テ子ヲ生ミタリ  
 且ツ其夜正ニ深更ニ及ブ比ヒ内部至聖所ノ東方ノ銅門自  
 ラ啓キタリ此門ハ常ニ夕ニ至レハ必二十人ヲ以テ力ヲ尽  
 ソ之ヲ閉チ深ク壁中ニ插ミタル門栓ヲ以テ堅ク之ヲ鎖  
 シ且ツ鉄棍ヲ以テ之ヲ支フル者也人々ハ皆此ノ變事ヲ以  
 テ吉祥ト爲シ相語テ曰ク神ハ福ノ門ヲ開キタリト然ルニ  
 有識者ハ之ヲ以テ敵人侵入ノ兆候ト爲シ語テ曰ク敵人ノ



至聖所ニ入ルコト必容易ナルベシト祭後數日ヲ越テアンテオ  
 フエビハンソノイエルサリム城ニ侵入スルニ先ツテ恰モ二  
 百三十五年前ノ如キ現象アリ蓋日未タ没セサルニイウデ  
 ヤ國ノ中天ニ方リ兵車及ヒ戎兵見ハレ雲間ヲ馳驅ソ諸都  
 ナ圍メリ其後五旬祭日ニ至リ司祭等奉事ヲ行ハンカ爲ニ  
 至聖所ニ昇リシガ忽マテ鬧噪ノ聲及ヒ震動ヲ聞キ又衆多  
 ノ人聲ニテ此ヨリ出ツベシト云フヲ聞タリ或人ノ思察ニ  
 因レバ此聲ハ必ハリストスノ信者ヲソイエルサリムヲ去  
 リテイタルダシ河外ニ遁レバレステナ東北ノ山中ナルベ  
 ヲラ都ニ移去セヨトノ事ナルベシト蓋イウデヤ人カ開キシ

此慘酷ナル戦乱ヲノハリステアニソニ及ハザラシメンカ  
 爲メ也

第三 イウデヤ戦争ノ原因

イウデヤ人ハ常ニ主ヲ信セズノ却テ之ヲ害セシヲ以テ天  
 之ヲ罰センガ爲メニイウデヤノ戦争ヲ起サシム天豫ノ非  
 常ノ前兆ヲ以テ之ヲ示セシカ人々ハ唯地上ノ事ノミヲ觀  
 察スルカ故ニ此戦争ヲ以テ自然ニ起レリト爲セリ抑々其原  
 因ハイウデヤ人等常ニローマ人ノ羈轡ヲ脱センコトヲ企望  
 スルニ在リイウデヤ人以爲ラウラアムノ子孫ハ宜シ  
 シ人ノ奴隸トナル可ラスト(伊望八ノ三二)又古ノ預言者ノ



此時人アリ彼等ノ境内ヨリ出テ全世界ヲ領スベシト云ヒ  
 シテ誤解ノ之ヲ己レニ歸シ以テ衆人ノ間ニ傳唱セリ戰爭  
 ノ年ニ近ツクニ及ンテローマノ新任長官ゲツシーフロ  
 ルナル者ハ殘虐ヲ肆ニシ貪婪ヲ恣ニシ大ニイウヂヤ人ヲ  
 怨望憤怒セシメタリ何トナレバ彼ハ禮拜堂ノ寶藏ヲ掠奪  
 シ且ツ自ラ盜賊及ヒ人ヲ殺セシ者ヲ庇蔭セシテ以テ也然  
 リ而シテイウヂヤ人カ奮然トシ始テ騒乱ヲ企テシ所以ノ者  
 ハ他ナシシリヤ人カ嘗テ大ニイウヂヤ人ヲ凌辱セシトフ  
 ロールカ己ノ權柄ヲ慢侮シタルヲ憤リイエルサリムニ於  
 テ三千六百人ノ無辜ヲ殺戮セシトニ因ル也

第四 イウヂヤ戰爭ノ實況

チロン在位十二年ノ春(ハリストス紀元六十六年)イウヂヤ  
 人等ハ意ヲ決シローマ人ニ叛メ遂ニ戰端ヲ開キタリ其巨  
 魁ハ嘗テ會議場ニ於テ使徒パウエルノ口ヲ打タシメタル司  
 祭長アナコヤノ子エレアナル也(行傳二三ノ二)此時エレア  
 ザルハ尙ホ少ニシ禮拜堂番兵ノ首長タリシカシロト即チ  
 妄信ニシ且ツ熱心ナル自由黨ノ上ニ立チテ堅ク禮拜堂ニ  
 於テローマ帝ケサリノ爲メニ獻祭スルヲ禁シタリ又マ  
 ナエムナル者アリ來リテ此擾民ニ加ハレリ此ノマナエム  
 ハ是ヨリ前六十年戶籍調査ノ時ニ人民ヲ擾動セシ著名ノ



イウダガリレヤンノ子也(行傳五ノ三七)マナエムハマサダ  
 ノ武庫ヲ毀テ同志ヲ募集メイエルサリムニ赴キローマノ  
 鎮臺ヲ攻メタリシガバ鎮臺兵ハ數々之ヲ鎮制シタレト暴  
 徒ハ肯テ之ヲ聽ザリキエレアザルノ父アナニヤハ固ヨリ  
 擾乱ヲ可トセサレト戰乱ノ起ルニ及テ直ニ其兄弟エゼキ  
 イト借ニ執ヘラレ遂ニ刺客ノ爲メニ殺サレ後幾何モナク  
 ノマナエムモ亦刺客ノ爲メニ殺サレタリ蓋同黨中其傲慢  
 ニシ且ツ暴虐ナルヲ惡テ之ヲ殺セシ也此時ローマ人ハイ  
 ウデヤ人ニ圍テ死テ赦サンコトヲ請ヒ且誓テ曰ク武器  
 及ヒ財産ハ皆之ヲ爾ニ與ヘントイウデヤ人乃チ之ヲ許シ城

チ出テシノ誓ノ如ク其楯及ヒ刀劍ヲ奪ヒシカ忽チ誓ヲ破  
 テ之ヲ殺戮セリ然ルニ神ハ敢テ公審ヲ私セス乃チシリヤ  
 人等ハ其同日同時ニケサリヤニ於テ二万余ノイウデヤ人  
 チ殺シタリ又同時ニ地中海沿岸地方ニ於テイウデヤ人ト  
 異邦人トノ間ニ慘酷ナル争鬭起リイウデヤ人ハ到ル處悉  
 ク敗北シ死スル者常ニ千ヲ以テ數ヘリアレクサンドリ  
 ヤ一都内ニ於テイウデヤ人ノ死スル者亦五万人ノ多キニ  
 至レリ

シリヤノ執政ツユステイガウルハ各地方皆イウデヤ人ニ向  
 テ騷擾スト聞テ速ニ之ヲ鎮制セント欲シ自ラ精兵ヲ率テ



ンテオヒヤチ出テ先ツイエルサリムニ赴キ乱黨ヲ攻テ之  
 ナ外城及ヒ禮拜堂ニ圍ミタリ始ハ其勢甚ダ盛ンニシテ幾  
 ト敵ヲ破ルニ至リシガ忽チ勢變メツエステイハ俄ニ兵ヲ收  
 メテイエルサリム城外ニ走リ大ニシロト党ノ爲メニ追蹙  
 セラレ遂ニ大敗シ名譽ヲ失ヒ狼狽シリヤニ歸レリイウ  
 デヤ人ハ既ニローマ人ヲ追ヒ退ケ咸ク禮拜堂ニ集リテ政  
 法ヲ編制シゴフノ子イナシフ及ヒアンナノ子司祭長  
 アンナ二人ヲ以テ其都ノ長官ト爲シ司祭長アナニヤノ子  
 エレアザルヲノイトメヤチ治メシメマトフェイノ子イオシ  
 フチ以テガリレヤチ治メシメタリ此ノイナシフナル者ハ

イナシフフラワイト名クル者ニシテイウデヤノ古事記及ヒ  
 軍記七卷ヲ後世ニ傳ヘタル者也ツエステイハローマニ歸テ  
 イウデヤ戰爭ノ景況ヲチロンニ具申セシカバチロン乃チ  
 將帥中最モ勇猛ヲ以テ名アルワエスパシアンチ遣ハシ乱黨  
 チ撃タシメタリ此ノワエスパシアンハ嘗テ日耳曼人ヲ鎮定  
 シ且ツブリタニヤニ於テ大軍功ヲ顯ハシ大ニ其名ヲ輝カ  
 セシ者也(紀元六十七年)ワエスパシアンハ其子テトチ從ヒ自  
 ラ大軍ヲ率キテパレンステナニ進行シ沿海ノプロトレマイグ  
 都チ出テ先ツガリレヤチ攻メ遂ニ之ヲ征服シ其執政イナ  
 シフフラワイチ擒ニシ後一年間ニシテ尽クサマリヤ及ビイ



ウテヤノ名都ヲ取リ紀元六十八年將ニイエルサリム城ヲ  
 圍マントセシガ俄ニテロンノ訃報ヲ得且ツローマ國內モ  
 亦騷乱セシヲ以テ遂ニ之ヲ止メシカ其明年(六十九年)ワエス  
 パシアンハシリヤ軍中ニ於テ衆ノ爲メニ選舉セラレテ帝  
 トナリシカバ自ラ帝權ヲ掌握センガ爲メニ速ニローマニ  
 赴キ軍事ヲ以テ尽クテトニ委シタリ  
 時ニイエルサリムニ於テ乱党即チシロト党ト着實党トノ  
 間ニ一大内乱ヲ生セリアンナノ子司祭長アナンハ着實黨  
 ノ首長ト爲リイテシフレワイエフハ「シロト」黨ノ巨魁トナレ  
 リ曾テイウテヤ人ヲ率テテトノ旗下ヲ脱シ沿海ノギスハ

ラ城ヨリイエルサリムニ來リテ竄匿シタル者也然ルニ乱  
 黨ノ勢稍々衰ヘテ禮拜堂ニ籠居セシカバ禮拜堂ハ則チ兇  
 賊ノ巢窟トナリ乱黨ハ固ク之ヲ守リイトメヤ人ト共ニ出  
 テ、豪家ニ乱入シ大ニ殺奪ヲ肆ニセシカバイエルサリム  
 城ハ積屍山ヲ爲シ流血河ヲ爲スニ至リ乱黨遂ニ司祭長ア  
 ナンヲ殺シ獸類ヲメ其屍ヲ食ハシメタリ又ウルナワノ子  
 ザハリヤナル者ヲ執テ之ヲ禮拜堂内ニ殺セリザハリヤハ  
 イエルサリムノ人ニ最モ有名ノ士人也然ルニ其後シロ  
 ト黨モ亦自ラ分裂シ二黨派トナリ互ニ相暴虐ヲ行ヘリ  
 テトハ大ニ兵ヲ調メイエルサリムヲ攻撃セント欲シ七十



年ノ春バスハ祭日ニ先ツテ都城ヲ圍ミタリシニシテ外  
 城ノ南面甚ダ堅固ニシテ近ツクヲ得ザリシカバ東北両面ヨリ  
 之ヲ圍ミタリ此ニ城壁三所アリ敵人ノ衝ニ當ル故ニロー  
 マ人先ツ之ヲ破ラント欲シ壘壁ヲ築キ攻具ヲ備ヘ且ツ投  
 石車及ヒ轉砲器械ノ下ニ於テ工ヲ爲セシカバ毫モ敵人ノ  
 襲撃銃射ヲ受ルコトナシ此投石車ハ「フールド」半ノ大石ヲ投  
 シテ百七十八間餘リノ遠キニ達セシカバ圍中ニ在ル者ハ大  
 ニ其害ヲ蒙リ殊ニローマ人が投ズル所ノ飛石ハ染ムルニ  
 黒色ヲ以テテ敵人ニ視エザラシメシカバ之ガ爲メニ敵人  
 ノ死スル者甚ダ多シ是時先ノ預言者イハス、モ亦圍中ニ

在リ城中ヲ巡リテ叫テ曰ク悲哉悲哉都城及ヒ禮拜堂并ニ  
 人民ヤト一日之ニ語ヲ増シ曰ク我ニモ亦悲傷アリト云ヤ  
 否ヤ忽チ飛石ニ當テ死セリ此時テトハ既ニ頃刻間ニ二城  
 ナ陷レ將ニアントニイフ城及ヒ禮拜堂ヲ下サントセシガ  
 障礙有テ遂ニ其意ヲ達スルコト能ハザリキ是ニ於テテトハ  
 敵人ノ要道ヲ梗キ糧食ヲ斷テ以テ之ヲ降サント欲シ長圍  
 テ築テイエルサリム城ノ四方ヲ壅塞セリ即チ一里コトニ  
 壘柵ヲ築クコト(路加十九ノ四三)三十所其ノ迅速ナルコト三  
 ニ功ヲ竣ハレリ是ヨリ先キバスハ祭日ニ當リテイウデ  
 ヤノ各地ヨリ人民ノ都ニ集合スル者三十万人ノ多キニ及



ヒシガ今テトカ此柵ヲ築クニ及テ皆城ヲ出ル能ハズ故ニ  
イエルサリムハ遂ニ其人民ノ獄舎刑場トナレリ

第五 イエルサリム城中大ニ飢餓ニ苦シム

園中ニ在ル者ハ此時既ニ飢餓ニ苦ミタリシガ乱黨カ掠奪  
暴虐ヲ爲スヲ以テ益々困難ヲ究メ飢餓ニ逼迫シテ往々全  
家死スル者アルニ至レリ是ニ於テ羸衰疲弊シタル者群ヲ  
爲シ徘徊シ又屋舎トナク街衢トナク飢餓ノ爲メニ斃死ス  
ル者アリ或ハ乱黨ノ爲メニ殺害セラル、者アリテ累尸山  
ヲ築キ積骸丘ヲ爲ス其狀實ニ膽ヲ冷スニ至レリ乱黨ハ死  
者ノ懷ヲ探リ其餘糧ヲ掠シ剝奪殘暴至ラザル所ナク絶テ

他人ニ食ヲ得セシメサリシカバ衆皆物ノ善惡ヲ問ハズ味  
ノ臭香ヲ擇ハズ苟モ口ニ供スルニ足ル者ハ咸ク之ヲ食シ  
遂ニ犬豚モ敢テ食セサル物ヲ食フニ至レリ其甚キニ至テ  
ハ往々帶履ヲ齧ミ或ハ楮革ヲ噬ミ或ハ腐蕪ヲ食フ者アリ是  
ニ於テ闕都聞寂肅條トシ殆ント墓田ニ異ナルヲナシ夫レ  
イエルサリム人民カ斯ノ如ク慘怛ナル苦界ニ陥リシ所以  
ノ者ハ全ク神罰ノ然ラシムル所也イテシフフラワイハ其  
慘狀ヲ書セント欲シ言語以テ之ヲ名狀スヘキナク遂ニ左  
ノ殘忍ナル一事ヲ記セリイウデヤノ一婦人マリヤト云フ  
者アリ貴族ニシ且ツ富人也イタルダシ河外ヨリ來リテイ



エルサリム城内ニ匿レ遂ニ衆ト共ニ敵ノ爲メニ圍マレタ  
 リ其所持ノ珍寶奇貨等ハ尽ク府内ノ有司等ニ剝奪セラレ  
 加之兵士等ハ毎日其家ニ侵入シ珍寶ノ殘餘ヲ奪ヒ或ハ食  
 糧ヲ掠メテ去リシカバ婦人大ニ怒リテ痛ク乱党ヲ罵詈セ  
 シカモ乱党ノ敢テ之ヲ殺サ、リシハ亦奇ト云フベシ婦人  
 ハ既ニ悉ク什物ヲ失ヒ且ツ大ニ飢餓ニ苦ミシカバ自ラ其  
 ノ天賦ノ性ニ逆フテ殘酷ノ事ヲ行ヒタリ即チ己ノ嬰兒ヲ  
 殺シ火ニ炙リ之ヲ食テ半ヲ藏シタリシニ乱党ハ其香ヲ嗅  
 キ乱入シ之ヲ恐嚇ノ曰ク爾何チカ食スルヤ若シ我ニ示サ  
 ズンバ我レ爾ヲ殺サント婦人乃チ小兒ノ半休ヲ出メ之ニ

示セシカバ奸惡ナル乱黨モ之ヲ見テ大ニ驚キ默然タリ婦  
 人之ニ謂テ曰ク此ハ是レ我が實子ニシテ我レ手ツカラ之ヲ殺  
 セシ者也爾宜シク取リテ之ヲ食フベシ我既ニ之ヲ試ミタ  
 リト乱黨曰ク爾ハ大膽ナル婦人ナル哉爾ハ殘忍ナル母ナ  
 ル哉婦人答テ曰ク然リ爾ハ信心ノ人也然ルニ我ハ既ニ其  
 半ヲ食シ其半ヲ蓄フ此ノ如シト乱黨之ヲ聞キ大ニ恐レテ  
 去レリ究困ノ甚シキニ由テ此ノ如キ殘酷ナル罪惡暴行其  
 他廉耻ヲ破リ聖事ヲ輕蔑スル等ノ事ハ盛ニ蒙昧刻薄ナル  
 イエルサリム人ノ間ニ行ハレタリイテシフフラワイハ自  
 ラ此事ヲ明言メ曰ク若シローマ人等チノ早ク此ノ無法者



ヲ滅サ、ラシメバ則チイエルカリムハ或ハ地ノ爲メニ吞  
マレ或ハ洪水ノ爲メニ滅サレ或ハソドムノ如ク火ノ爲メニ  
滅サレシナラン何トナレバイエルサリムハ此刑ヲ蒙リシ  
者ニ比スレバ百倍ノ不正ナル民族ヲ出シタレバ也ト

第六 都城陥ルヲ○禮拜堂焚燬スルヲ○勝者慶賀

ノヲ

府民ハ長圍中ニ在リテ強抗シタリト雖用テトノ勢甚マ盛  
ニソ遂ニアントニフ城ヲ陥レ又禮拜堂ノ外廊ヲ奪ヒタリ  
テトハ此ノ禮拜堂ハ甚タ壯麗ニシテ東方ニ於テ未ダ曾テ見  
ザル所ナルヲ以テ之ヲ保存セント欲シ令テ下ノ聖所ヲ毀

ツトナカラシム然レモ(イウデヤノ歴史家ハ自ラ此事ヲ認  
承ス)神ハ此城ヲ焚燒セシメント預定セシト既ニ久シ故ニ  
一兵士アリ神ノ許ヲ得テ燃ユル所ノ柴薪ヲ取り將ニ之ヲ  
堂内ニ投セントセシガ窓ノ甚タ高フメ達スル能ハザルヲ  
見同党ヲシ己ヲ擡ケテ北方ノ窓下ニ至ラシメ以テ之ヲ堂  
内ニ投セシガハ禮拜堂ハ咸ク焚燬セリイウデヤ人ハ唯此  
ノ聖所ヲ救フニ尽力シテトモ亦嚴令ヲ下シ火ヲ撲滅スル  
トテ命セシガ軍士中或ハ奮然トシ乱党ヲ攻ル者アリ或ハ  
嚴令ニ反シ火勢ヲ熾ニスル者アリテ禮拜堂ハ遂ニ灰燼ト  
ナリテトノ望モ亦達セザリキ抑此ノ事タル六百五十八年前



第一禮拜堂ヲウロン人ノ爲ニ焚カレタルノ日ト月日ヲ同  
 フゼリ其後外城モ亦次テ陥リ都内ノ家屋ハテトノ令ニ因  
 テ悉ク破毀セラレタル故ニ壯觀ナルイエエルサリム城中ハ  
 所謂ル石上ニ石ヲ遺スナキニ至レリ此ノ圍中ニイツテ  
 ヤ人ノ或ハ餓死シ或ハ戰死スル者大凡一百十万人擒ニセ  
 ラレタル者九万七千人其中鑛坑ニ謫役セラル、者アリ奴  
 隸ニ賣ラル、者アリ或ハ衆前ニ於テ力士ノ爲メニ刃殺セ  
 ラル、者アリ或ハ獸ノ爲メニ齧殺セラル、者アリローマ  
 人等ハカビトリイニ於テ戰勝ヲ慶賀センガ爲メニ宴會ヲ  
 開キテ食卓燭臺及ヒイツデヤノ法律書等ヲ携ヒ來リ又

イツデヤ人ニ命シテカビトリイナルユピテルノ禮拜堂内  
 ニ聖ナル「テドラフマ」(貨弊ノ名)ヲ携ヒ來ラシメタリ是レ實  
 ニローマ人カ所謂ルケサリノ外ニハ我儕ニ王ナシトノ言  
 ニ符應シタリ

夫レイスラエリ人が約地ヲ略取セラレシヨリ一千五百十  
 九年ヲ越エ三十一年紀ヲ祝スルニ先チテイスラエリ人ハ  
 尽ク四方ニ散去セシメラレタリ約地未ダエウレ一人ノ爲  
 メニ征略セラレザル四十五年前ニモイセイカ何テ書ヒシ  
 ヤ之ヲ讀テ自ラ能ク鑒スベシ其言ニ曰ク神自ラ曰ク若シ  
 爾等我ニ聽カズノ強テ我ニ逆テ行カバ我モ亦怒テ爾ニ逆



フテ行カン且ツ我レ爾ヲ罰スルニ爾ノ罪惡ニ七倍ナル刑  
 ナ以セン爾必己ノ子女ノ肉ヲ食フニ至ルベシ我將ニ爾ノ  
 都城ヲ空虛トナラシメ爾ノ聖所ヲ荒蕪ニ就カシメ  
 ントス我レ將ニ再ビ爾ノ馨香(献祭ヲ云フ)ヲ享ケザラント  
 ス我レ將ニ此地ヲ荒蕪ニ就カシメ以テ此地ニ住スル爾ノ  
 敵人ヲ恐懼セシメントス將ニ爾ヲ異邦人中ニ散居セシメ  
 ントス我レ將ニ一劍ヲ爾ノ後ニ拔カントス爾ノ地ハ必曠  
 虚トナルベシ爾ノ都ハ必廢址トナルベシ其時地ノ荒廢ニ就  
 シノ時ニ於テ終始己ノ安息ヲ以テ自ラ満足セントス(利未  
 二六ノ二七ヨリ二九三一ヨリ三四)

初代教會史終



正誤

八葉九行

是レノ(レ)ハ(ク)ノ誤

廿三葉二行

終ハノ下ニ(ラ)ヲ脱ス

七十一葉五行

其ノ下ニ(時)

七十八葉四行

絲ハ(綵)

八十四葉四行

救世主ノ下ニ(主)

百二十六葉二行

負ハ(員)

百三十葉一行

スルノ(ノ)ハ(チ)

百三十八葉四行

(ワエチリカ)ハ(ワエリチカ)

百四十四葉五行

下ノ(聰)ハ(聰)

百六十二葉四行

(或ハ)ハ(其妻)

百六十七葉一行

(纒)ハ(讒)



百七十九葉九行 著述ノ下ニ(時)

百九十七葉四行 教會ノ下ニ(ノ)

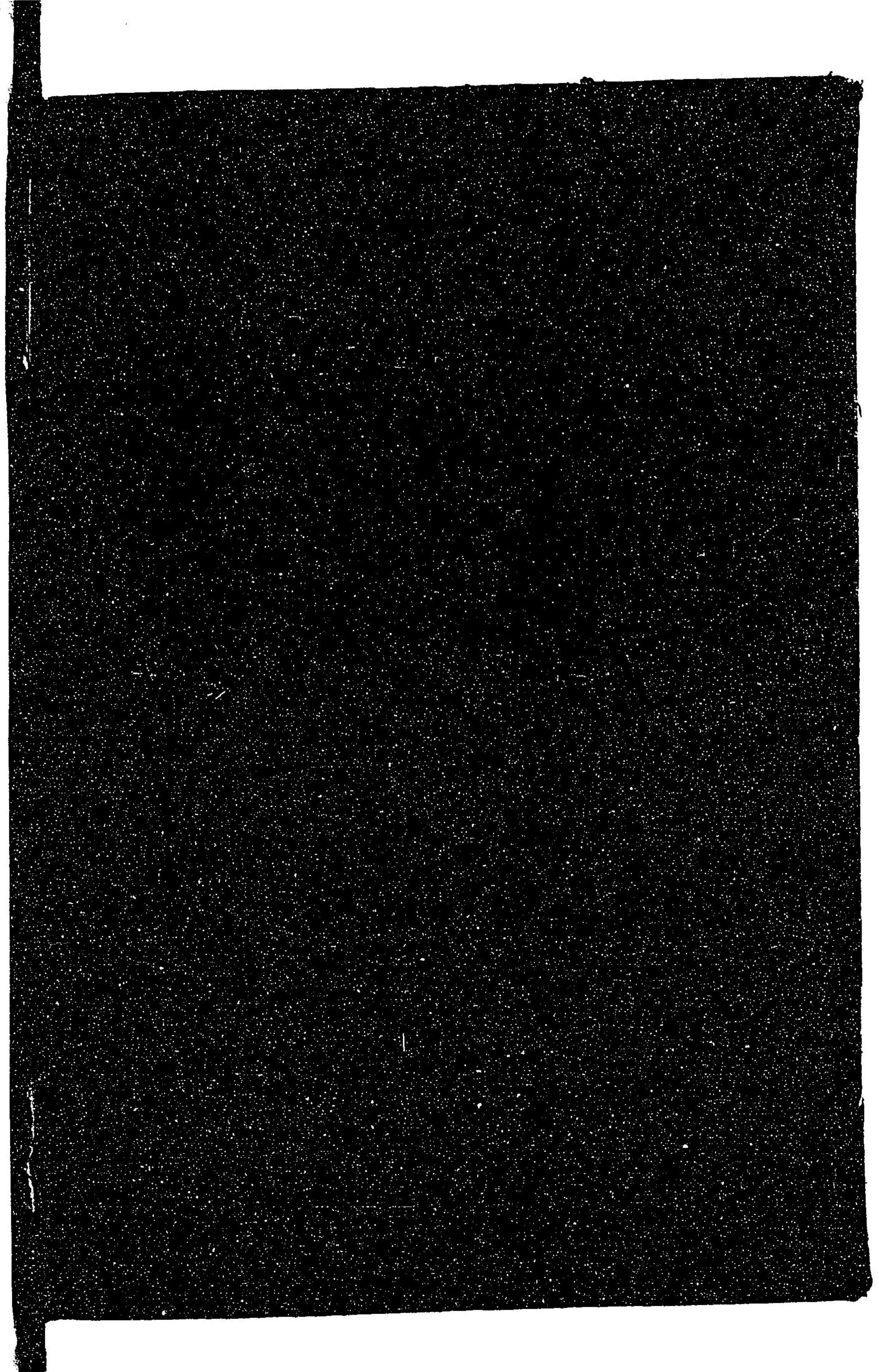
二百七葉一行 (丙)ハ(丁)

二百十八葉一行 (關)ハ(跡)



33  
182









020764-000-4

33-182

初代教会史

正教会 / 著

M15

ABI-0589

